

表れていた。神の技への挑戦は、人間の偉大さを示す仕事であると同時にまた謙虚さも求められる仕事なのである。

参考：『フランケンシュタイン』の翻訳書は、
角川文庫、創元推理文庫から出ています。

「豊橋東ロータリー」と 「愛知大学」

法学部
常石 希望



韓国・中央大学校と言えば、周知のごとく愛知大学の姉妹校。医学部も備え学生数2万名をはるかにこえる韓国私立大学の雄である。愛知大学と中央大学校との姉妹関係は1996年に始まり、今年で10年目という一つの節目を迎える。その間の両校の交換留学生総数は40名を超え、また韓国セミナーに参加し中央大学校に約1カ月滞在了愛大生は120名を超える。10年という決して長くはない時間に、これほどの交流の数値に至っている点に改めて驚かされる。

ところで、ここで紹介しておきたいのは「豊橋東ロータリー」との関係である。上述したように、愛知大学と中央大学校が姉妹関係を開始したのは1996年のことであった。これには愛知大学側では陶山信男名誉教授、中央大学校側では故・黄聖圭（ファン・ソンギョ）教授の尽力が大きかった。ところが、同じ年「豊橋東ロータリー」と「中央大学校」との国際交流プロジェクトという姉妹関係も開始するのである。ここでも上記両先生の協力、特に中央大学校側の黄先生、また豊橋東ロータリー側では故・中村英彦氏、および中野博三氏を中心に国際プロジェクトが開始された。

つまり「豊橋東ロータリー」も「愛知大学」も中央大学校と姉妹関係を結び、しかも共に同じ年に、ということであれば、「豊橋東ロータリー」と「愛知大学」との関係は、まさしく中央大学校を介しての「兄弟関係」と呼ぶにふさわしいと言えよう。

「豊橋東ロータリー」では過去10年間にわたって様々な国際交流プロジェクトを実施してきたが、特に愛知大学と関係の深い交流だけを挙げれば、毎年7月に開催される、“中央大学校日本語日本文学科の学生数名と教員の豊橋招待”がある。つまり、韓国の学生諸君に三河文化を紹介し、名古屋を紹介し、従って日本を紹介しようというプログラムである。これには、より直接的に日本を肌で感じてもらうための「ロータリー会員の自宅ホームステイ」という熱意のこもったプログラムも含まれており、まことに頭の下がる思いである。また、同期間中にはかならず大々的なパーティーを開催し、ここには国際交流に関係のある愛知大学教職員と留学生（特に中央大学校と関係のある愛大留学生）が毎年招かれている。冒頭の「写真」は本年2005年7月の同パーティーの一コマ、右側は豊橋東ロータリー・落合幸一郎会長、左側は中央大学校日本語日文学科・任英哲（イム・ヨン Chol）学科長。

以上、わが愛知大学とは国際交流を通して「兄弟関係」になる「豊橋東ロータリー」のことを紹介させていただいた。